

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-180	14-305	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
Topiramate treatment for heavy drinkers: moderation by a GRIK1 polymorphism. 大量飲酒家の Topiramate 治療:GRIK1 多型による調整		
執筆者		
Kranzler HR, Covault J, Feinn R, Armeli S, Tennen H, Arias AJ, Gelernter J, Pond T, Oncken C, Kampman KM.		
掲載誌		
Am J Psychiatry. 2014 Apr;171(4):445-52. doi: 10.1176/appi.ajp.2013.13081014.		
キーワード	PMID	
トピラマート、遺伝子多型、GRIK1	24525690	
要旨		
<p>目的:</p> <p>トピラマートは、断酒が目的となっているアルコール依存症患者で飲酒量と大量飲酒を減らすことが示されていた。著者は、治療目的が飲酒を安全なレベルに下げることになっている大酒家で、トピラマートの効果と忍容性を評価した。</p> <p>方法:</p> <p>トピラマート(N=67)による12週間の治療(200mgの最大限の1日量)または、対応するプラセボ(N=71)を合計138人の個人(62.3%が男性)に無作為に割付けた。両群は、飲酒量を減らして飲まない日を増加させるために、短いカウンセリングを受けた。トピラマート治療患者がこれらの目的を達成することがよりよく可能であると仮定された。そして、先行研究に基づいて予測される効果はカニン酸の GluK1 受容体サブユニットをコード化する GRIK1 で一塩基変異多型(rs2832407)によって調整されることである。</p> <p>結果:</p> <p>治療完遂の率は、84.9%で、治療群によって相違はなかった。トピラマート治療は、暴飲日を有意に減らし、プラセボに比較して飲まない日を増加させた。トピラマートの投与を受けた患者は、プラセボ群より肝酵素γ-グルタミル・トランスペプチダーゼの低値と一定のアルコール関連の問題の低いスコアを示した。ヨーロッパのアメリカのサブサンプル(N=122)において、暴飲日に対するトピラマートの効果は、rs2832407 C-アレル・ホモザイゴートだけで、プラセボに比べて有意に大きかった。</p> <p>結論:</p> <p>本研究の所見は、問題飲酒者で暴飲を減らすために、200mgの1日量のトピラマートの用法をサポートする。確認された場合において、rs2832407の調整効果は、トピラマート治療に治療に反応する大酒のみの同定を容易にし、重要なカスタマイズされた治療の選択肢を提供するだろう。薬理遺伝学的所見は、暴飲に対するトピラマートの効果の機序にカニン酸レセプタの関係を示す。</p>		